

けんぼんちゃくしよくあいぜんみょうおうぞう  
28 絹本著色愛染明王像



指 定 県 宝 平成27年9月24日

所在地 協和

所有者 福王寺

福王寺は、平安時代大同3年の開基とされ、平安時代から鎌倉時代、江戸時代等の仏像を複数安置する古刹である。福王寺絹本著色愛染明王像は、福王寺に残る江戸時代の福王寺財産目録に「愛染明王軸」として記載されていることから、それ以前から寺に伝わっていたものであることがわかる。絹本製で仏具表具仕立ての条幅であり、正面向きの愛染明王を大きく描き出しており、明王は赤色の蓮華座上に結跏趺坐し、その全体は熾盛光輪という火炎を抽象化した赤色の円相内に収められている。胸前に構えた右第一手には金剛杵（五鈷）、右第二手には矢、高く挙げた第三手には蓮華、左第一手には金剛鈴、第二手には弓を持つ。左第三手は拳のままとし、様々な修法に対応する姿である。明王の下方には宝瓶を描き、周囲には宝瓶から湧き出した宝珠などの宝物が描かれる。製作年代は、オーソドックスな図様であること、確かな線描の技術が見られること、目のつんだ絹が用いられていることなどから、鎌倉時代末から南北朝にかかる頃の十四世紀と判断される。